

WakitatomohiroTanigawaaikoMukoyamatakanoriHattorikeikoNishiimizuOgawatakashiTabatachihiroAratanimihoko

TerasutatatsuyahiIraoayumiSakaguchikayowiyazakitomokoOkawayumiKurodayoshiWigilayumiMarazakiunijyoTanabatachiEhirosekazumiYamasakiMasamiTanakatonomi

OzakiyoshinoriTakakinoboruSugiharanorikoMurozakikazumiMaefanKunisatorikiMiyawakitakashiOgatamasaakiMasutaniakikoYamaguchinorikoSakakitakatoshi

50年のあゆみ

医療法人 甲風会 有馬温泉病院

1972

2022



50th

未来へつづく
有馬温泉病院

SugimototomokoMoriokashizukoKoizumikatsuraKinomotomiyukiMaruyamaharukaInouetomokiNakamichitakuya

創立 50 周年。そして未来へ。

おかげさまで医療法人甲風会有馬温泉病院は、創立 50 周年を迎えました。

半世紀前、有馬街道も十分に舗装されていない時期に有馬温泉病院は誕生しました。当時は医療と介護の区別は明確でなく、リハビリテーションの概念も世の中に浸透していない時代でした。それから 50 年間、有馬温泉病院は発展してきました。これもひとえに多くの皆さまのご支援、ご厚情を賜ったからこそと、改めて感謝を申し上げます。

今後も、開院から 50 年間に築き上げてきた伝統と知恵を活かし、本院ならではの医療と介護を提供し続け社会課題の解決に挑戦し続ける所存です。

今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

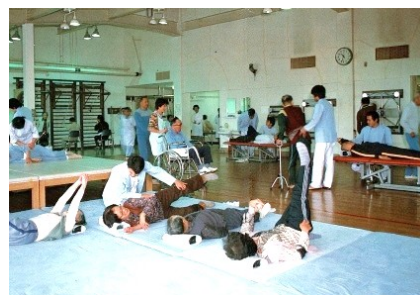
理念

「誠実」に敬愛と和の精神で
より高みを目指して
「進歩」し続けます。

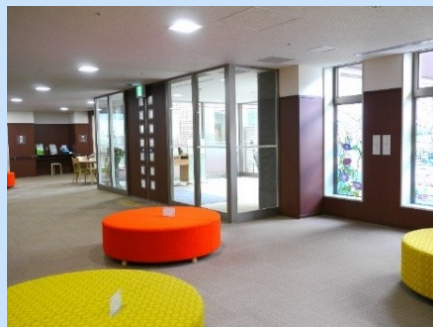
基本方針

尊厳ある人生に寄り添う病院であり続けます。
心と体のリハビリテーションを提供します。
患者満足度と共に職員満足度を高めます。

1972 年～2013 年
(旧病院)



2013年～現在
(新病院)



1972 年 - 1993 年

(昭和 47 年)

(平成 5 年)

1972 (昭和47年)

9月11日

創設者小林八郎によって有馬甲風会病院を設立

昭和 47 年 4 月に、医療法人甲風会を設立。

同年 9 月に有馬甲風会病院を設立。

開設当時の病床数は 100 床。職員数 70 名。

院長に久野満男が就任。



創設者 小林八郎



院内泉源

1974 (昭和49年)

8月

有馬温泉病院に改称

関西にはあまり温泉がないことを意識し、温泉病院という名前をつける。



10月

病床数変更許可

153床に変更

待機患者は 160 名を超える。

1975 (昭和50年)

8月

言語治療を開始



1976 (昭和51年)

4月

病床数変更許可

170床に変更



10月

言語訓練棟を設置



1979 (昭和54年)

12月

運動療法施設承認許可



1972

1972 (昭和47年)

沖縄が日本に復帰

昭和 47 年 5 月 15 日、米国との沖縄返還協定が発効し、沖縄の施政権が日本に返還された。施政権が返還された沖縄の範囲に、尖閣諸島が含まれた。



1973 (昭和48年)

第1次オイルショック

原油の供給逼迫および原油価格の高騰に伴い、世界経済全体が大きな混乱となった。



有野台団地造成開始

1975 (昭和50年)

山陽新幹線 全線開通



北区医師会 設立

昭和 48 年 8 月 1 日、神戸市の行政区改革により北神地区が兵庫区から分離、北区として独立したのを機に、54名の会員が兵庫区医師会より別れて北区医師会を創設した。

1976 (昭和51年)

新神戸トンネル 開通



1981 (昭和56年)

1月
作業療法施設承認許可



8月
新館設置
280床に増設



1985 (昭和60年)

6月
新々館設置
384床に増設
(一般46床、特例許可338床)



1993 (平成5年)

1月
入院医療管理移行計画スタート
(平成6年8月計画中止)

6月
日系一世のブラジル人30名を
介護職員として採用
(平成8年まで)

1993

1989 (昭和64年)

新元号「平成」 消費税(3%)開始



医療法人 甲風会 有馬温泉病院
理事長・院長 中川 一彦

組織が生き残り成長を続けるためには先見性が必要です。有馬温泉病院の創設者は3つの先見性を持って有馬温泉病院を開院しました。一つは有馬温泉病院という名前です。遠方の初対面の人でも「有馬温泉病院の者です」と言えば旧知のごとく対応して頂けます。これは全国に知れ渡った「有馬温泉」の名を冠しているからです。本院の敷地は瀬戸内海国立公園六甲地域内にあり国立公園内に存在する国内唯一の病院です。二つ目は温泉です。それも「有馬の湯」なのです。三つ目はリハビリテーションです。日本理学療法士協会が少人数で発足したわずか6年後に有馬温泉病院はリハビリテーションの看板を掲げて開院しました。日本のリハビリテーションの草分けなのです。一方、50年間の歴史の中で培ってきたことも多くあります。明るく挨拶を交わす習慣や丁寧な対応は有馬温泉病院の伝統です。通常の病院と変わらずに入院できる本院ですが、個室・準個室割合が40%を超えている、ある意味で特殊な病院でもあり、開院時のコンセプトでもある「高級な病院」の一端は引き継がれています。

今後、日本は人口減少と財政の枯渇から病院数は減少していきます。病院が今後も生き抜くために「有馬温泉病院はどちらの方向に進み何をすべきか？」を熟慮しなければなりません。そのために有馬温泉病院の存在意義(パーパス)を明確にし、それを軸に社会に貢献していくことが存続し続ける唯一の方法です。誤魔化しなく、利用者に真摯に向き合い、とことん尊厳を守る病院にならなければいけません。そして本院で働く職員が幸せであることが、患者・利用者様に最良の医療介護サービスを提供する素地になります。50年間で培った本院の強みを生かし、今後は地域と共に進むべきです。阪神間でリハビリテーションも行い、静養・療養するには有馬温泉病院しかないというブランドを確立する必要があります。有馬温泉病院は進歩を止めずに挑戦し続けます。

1984 (昭和59年)

ロサンゼルス五輪
神戸ハーバーランド誕生

1987 (昭和62年)

三田市の人口増加率が日本一に
1981年開発当時の人口は3万6千人台
だった。1987年から人口増加率が10年
連続日本一となり、1996年には10万人を突
破した。



1981 (昭和56年)

ポートアイランド誕生
ポートピア'81開催

1988 (昭和63年)

瀬戸大橋が開通
六甲アイランド 街開き



1994年 - 2008年

(平成6年) (平成20年)

1994 (平成6年)

7月
特例許可206床、療養型病床群178床に移行



1995 (平成7年)

4月
介護職員のための寮が完成
5月
付き添い婦 終了
11月
・4階西病棟 新看護へ変更(60床)
・2階西・3階西病棟
特例許可老人病棟(146床)
・東病棟 療養型病床群2群(178床)

1996 (平成8年)

3~9月
院内感染防止対策加算
画像診断管理加算
紹介患者加算
夜勤看護加算

1997 (平成9年)

8月
訪問看護ステーションありま 開設

1999 (平成11年)

1月
全床療養型病床群2群に移行(360床)
4月
理学療法、作業療法 受理



10月
訪問看護 24時間連絡体制開始

2000 (平成12年)

1月
1階病棟 実質的休止(46床)
4月
医療保険療養型病棟 154床
介護療養型医療施設 206床
に移行
6月
6床休床(医療108床、介護200床、
休床46床)
7月
食堂棟 完成

2001 (平成13年)

8月
訪問看護ステーションありま
移転



2001 (平成13年)

アメリカ同時多発テロ



2000 (平成12年)

介護保険制度 施行
今までの施設介護から在宅介護に移行すること、核家族に介護の負担を
負わせないようにすることを目的
として、2000年に介護保険が施行さ
れた。

1994

1994 (平成6年)

関西国際空港が開港



1996 (平成8年)

リハビリテーション科の標榜が許可される

1995 (平成7年)

阪神淡路大震災
平成7年1月17日5時46分マグニチュード
7.3の地震が発生し、近畿圏の広域が大きな
被害を受けた。



1997 (平成9年)

消費税が5%へ

2002 (平成14年)

6月
言語聴覚療法 受理



10月
医療安全管理体制
及び
褥瘡対策チーム 設置

2004 (平成16年)

2月
財団法人日本医療機能評価機構 認定
4月
褥瘡患者管理加算 算定開始
10月
デイケアありまの湯 開設



2008 (平成20年)

6月
新病院建設プロジェクトチーム 発足



2003 (平成15年)

9月
ありまの湯
居宅介護支援事業所 開設

2003 (平成15年)

SARSが流行
イラク戦争 開始



2002 (平成14年)

初の日朝首脳会議

2006 (平成18年)

神戸空港 開港



2010



医療法人 甲風会 理事 小林 純子

はじめに、創業 50 周年を迎えるにあたり、これまで支えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。「光陰矢の如し」と申しますが、この 50 年、昭和・平成・令和へと医療を取り巻く環境も大きく変化いたしました。又、医療や医療人に対する人的社会的価値観も絶えず変遷し、それが医療現場においても少なからず揺らぎと混乱を巻き起こしてきたことも否めません。このような風雪にも耐え忍び、自画自賛をお許し戴ければ、有馬温泉病院は日本の医療界に半世紀の礎を刻み、歴史的使命と役割を果たせたのではないかと思う次第であります。振り返ればこの半世紀は、創始者である父 小林八郎の壮大な夢と理想を真正な現実に変えていく一大作業であったと言っても過言ではありません。望むところを確信し、まだ見ぬものを真実とする思いで、私も父に連れられ世界各国の先進の高齢者医療の現場を視察する機会にも恵まれました。この様に父と共に世界を駆け巡りながら、父の夢と理想に寄与貢献したいと思っておりましたのがつい先日の様に感じられます。

この 50 年の歩みを顧み、今ある有馬温泉病院の飛躍と発展は、ひとえに父の夢と理想を支えてきて下さった多くの病院関係者・医療行政関係者そして患者さんお一人おひとり、ご家族のご理解とご努力の結実の賜物だと思っております。父自らが結核で療養生活を送り、両親を脳卒中で亡くすという経験から、病気を診る医療を超え、人を診る医療へと、患者さんの身と心に寄り添った医療をひたすら追求して参りました。父の言葉の、「老人は、できるだけ幸せであってほしい」という希望に従い、益々進んでいく高齢化社会を見据え、有馬温泉病院へ寄せられる期待と要望に応えるべく、更なる努力と精進をお約束すると同時に、当院を支えて下さっております関係者一同と共に、改めて強く手を取り合っていく所存であります。

2011年-2018年

(平成21年)

(平成30年)

2011 (平成23年)

10月

新病院建設 着工

【安全祈願祭】

新病院建設の着工に先駆けて、大安吉日に有馬の湯泉神社で安全祈願祭を行った。当院役員、設計・施工業者が参加し、地域の団体会長の方々にもご来訪いただいた。



【着工】

- 浄化槽工事
- 新設構内道路整備
- 保育室移設
- 浄化槽部立上躯体工事
- 作業療法棟撤去
- 新設道路使用開始
- 清拭い
- 地盤改良工事
- 一新浄化槽試運転開始
- 地下1階基礎掘削工事
- 躯体工事(大型揚重機組立、設置)



2011

2011 (平成23年)

東日本大震災

3月11日、14時46分、地震の規模はモーメントマグニチュード9.0で、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震であった。

神戸市の人口が過去最多に

神戸市の人口が154万4970人となり最多に。以降減少中。



2013 (平成25年)

5月

新病院完成

50床減少

旧病院から新病院への引っ越し



12月

新駐車場 完成



12月

まちの保健室ありま 開始

地域住民の方々の心身の健康づくりを支援するために役立ちたいと考え、善家元看護部長、西山現看護部長により立ち上げた。



2013 (平成25年)

日本リハビリテーション医学会

設立50周年

2012 (平成24年)

東京スカイツリー 開業

山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞受賞



2014 (平成26年)

1月
新病院グランドオープン(304床)



4月
52床を一般病床に移行

4月
訪問看護ステーションありま 移転
岡場駅前から病院敷地内に事務所を移転。

8月
介護療養51床を医療療養に変更

12月
回復期リハビリテーション病棟 開設
51床を医療療養病床から移行

2015 (平成27年)

4月
SPD(医療材料一元管理) 開始
発注や払出しに伴う作業負担の低減、在庫スペースの削減、同種同効品を集約することによるコストの削減、データを一元管理し“見える化”を実現。

9月
訪問リハビリテーション 開始



2016 (平成28年)

9月
介護療養41床を医療療養に変更
6病棟を7病棟に
回復期リハビリテーション病棟を35床に



2018

2015 (平成27年)

熊本地震
震度7の地震による直接死と関連死を合わせた死者は150人を超えた。熊本城も大きな被害を受けた。



2014 (平成26年)

マイナンバー制度 開始
行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(番号法)が成立し、平成28年1月1日よりマイナンバー制度が導入された。

消費税が8%となる



藤堂 彰男
(平成14年から2年間副院長、17年間院長として勤務)

私は神戸市立の病院に28年間勤務し、65歳で定年退職、2002年より19年間当院でお世話になり4名(田中、小林、松浦、中川)の理事長にお伝えしました。色々な出来事の中、一番大きかったのは新病院建設・移転でした。

いなみ野病院長で当院の理事でもあった松浦役児先生が2007年に理事長として当院に着任されました。カラオケがお得意で随分親しくして頂きましたが、小柄でスリムなお姿ながら、豪快な御性格で着任早々院内広報誌「ありまの癒し」発刊と共に、老朽化した病院の新設計画に言及され「僕が病院を建てるのは3度目これが最後の仕事」が口癖でした。お礼も厚労省は、高齢者医療・介護費出費増大の対策として、介護療養病床廃止、社会的入院抑制、在宅介護を主体とする方針を打ち出し、慢性期病院の存続を脅かす締め付けが厳しくなる時期の始まりでした。しかし先生はそんな事には全く頓着されず病床数はほぼ同じながら延べ床面積を更に拡大し、廊下幅、病室をより広く天井を高くすると共に、屋上庭園、屋外のリハビリ施設設置など、患者様の居住性をよくして、快適に過ごせる様、気宇壮大な構想を練られました。2011年に着工、2013年(5月)に新病院完成・移転となったのですが、残念ながら先生御持病の心疾患が急激に悪化し、新病院への無事移転をお見届けになられた如く同年6月に御逝去となりました。

一方、新病院の経営状況が思わしくない中で、幸運にも臨床・経営能力共に優れた中川一彦理事長をお迎えする事が出来ました。先生は医療・看護・介護・リハビリなどの質をより一層高めつつも健全な経営改善をなしてげられ今日の隆盛へと導かれました。

国画点睛(中国の画人が白竜を描き最後に睛【ひとみ】をかき入れた所、本物の竜となり天に昇った)の故事に倣い、故松浦理事長が雄大な竜を描き、中川理事長がそれに瞳をかき入れたのが、今の有馬温泉病院の姿だと思っております。

益々の病院の隆盛・御発展をお祈り致します。

2019 年 - 2022 年

(平成 31 年) (令和 4 年)

2017 (平成29年)

7月
有馬婦人会介護予防講座 開始

当院の看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士が月に1回有馬に出向き、婦人会で介護予防講座を開始。



11月
介護療養43床を医療療養に変更



11月
当院で献血を開始

2022年9月時点で、延べ192名が献血に貢献。



2018 (平成30年)

3月
職員間の伝達ツールとしてインカムを導入



5月
旧有馬荘 解体工事開始(9月に終了)



8月
病院入口に新看板を設置

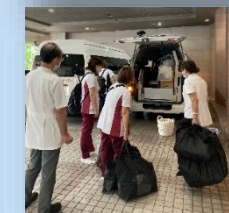
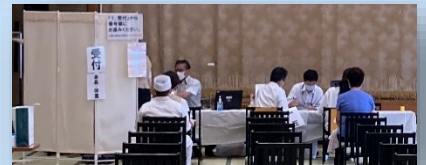


2019 (平成31年)

1月
リフレッシュ休暇制度 導入

勤続5年ごとに、3日間のリフレッシュ休暇を付与する制度を導入。

1月
健診事業 開始
院内で企業健診を開始。
また、有馬地域を中心に出張健診を開始した。



2019 (平成31年)

新元号「令和」発表
消費税が10%となる



中国武漢で新型コロナウイルスを発見



2018 (平成30年)

西日本で記録的豪雨

西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨。特に長時間の降水量について多くの観測地点で観測史上1位を更新。これにより、死者223名、行方不明者8名、家屋の全半壊等20,663棟、家屋浸水29,766棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生した。



2019

2020 (令和2年)

4月
 介護療養16床を医療療養へ
 介護療養病棟の廃止
 304床の医療保険で運営される病院と
 なる
 現在に至る



5月
 外国人(インドネシア)雇用 開始

5月
 電子カルテ 導入



2020 (令和2年)

日本で新型コロナウイルス感染拡大
 防止による緊急事態宣言発令



2021 (令和3年)

東京オリンピック 開催



2021 (令和3年)

4月
 院内でコロナワクチン接種 開始
 職員の希望者にコロナワクチン接種を開始。
 引き続き入院患者の希望者に接種を開始。

6月
 有馬地域でコロナワクチン職域接種
 開始

有馬グランドホテルで有馬地域の集団接種を
 実施。1日120人、合計2000人に接種。



2022 (令和4年)

5月
 マイナンバー受診 導入



11月
 外来改装工事



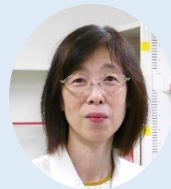
2022 (令和4年)

ロシアのウクライナ侵攻



言語聴覚士 渥美 邦子(勤続年数 33年)

平成元年より有馬温泉病院に勤務し 33年が経ちました。旧病院の言語療法室は台所、勉強部屋、和室、ホームバーのようなカウンターまである一軒家をイメージした2階建てのユニークな構造で、患者様をはじめ、見学に来られた方々が皆様感心されていたことを懐かしく思い出します。自然にも恵まれたこのような環境の中、じっくりと臨床、研究、学会発表と充実した日々を送ることが出来ました。語り合える仲間や、いつも温かく見守りご指導くださった先生方、そして何より患者様に感謝申し上げたいと思います。家族の協力にも感謝しています。当院リニューアル後は激動の毎日で戸惑うことも多いですが、少しでも貢献できるよう今後も頑張りたいと思います。



薬剤師 渡邊 公子(勤続年数 30年)

このような機会を頂いて、年月の経過を感慨深く感じております。勤めて30年となりますが、阪神淡路大震災の時は電気復旧まで薄暗い中、上皿天秤で薬品を計り、急場しのぎで入院患者様へ食事代わりにエンシュアリキッド(経口栄養剤)を配ったこともありました。業務上大変なことも多かったです。色々な方々からご指導頂き、今まで勤続することができました。様々なことを通し、人との出会いの大切さも感じました。仕事人として宝となった出会いも沢山頂きました。また、個人的には結婚・出産・子育てそして病気治療と色々ありましたが、職場の皆様方のご理解があって今があると心から感謝しております。ふと温かみが伝わってくる“チーム有馬”。これが、次世代の病院へと繋がる大きな魅力だと思っています。

And To The Future

創立 50 周年。そして未来へ。



【所在地】 〒651-1401 神戸市北区有馬町1819の2

【敷地面積】 49811㎡

【建築面積】 5093㎡

【延床面積】 13777㎡

【構造】 鉄筋コンクリート造地下1階、地上4階

【駐車場台数】135台

【診療科目】 内科、外科、リハビリテーション科、整形外科、皮膚科、耳鼻咽喉科

【病床数】 304床

【職員数】 382名(2022年9月現在)

【関連施設】 訪問看護ステーションありま、デイケアありまの湯、ありまの湯居宅介護支援事業所